

(社) 日本原子力学会 標準委員会 システム安全専門部会  
第 21 回 PLM 分科会 (P14SC) 議事録

1. 日 時 2011 年 11 月 18 日 (金) 13:30~17:30
2. 場 所 (独)原子力安全基盤機構 新館(虎ノ門タワーズオフィス)13 階 13E 会議室
3. 出席者 (敬称略)  
(出席委員) 鈴木 (主査), 渡邊 (副主査), 文能 (幹事), 石井, 矢野, 下家, 皆川,  
佐名木 (猿渡代理), 田村, 西山, 萬年, 大城戸, 三山, 山田, 新井,  
松浦, 遊佐, 中野, 橘高, 望月 (20 名)  
(欠席委員) 大木, 青山 (2 名)  
(常時参加者) 李 (川内代理), 田畑, 富田 (中村代理), 中川  
(傍聴者) 副島, 伊藤  
(事務局) 不在
4. 配布資料  
資料P14SC-21-1 第20回PLM分科会議事録 (案)  
P14SC-21-2 人事について (案)  
P14SC-21-3-1 PLM実施基準2012年版 (追補3) の専門部会決議投票結果  
P14SC-21-3-2 PLM実施基準2012年版 (追補3) の専門部会決議投票対応  
P14SC-21-3-3 PLM実施基準2012年版 (追補3) の専門部会本報告意見集約表  
P14SC-21-3-4 PLM実施基準2012年版 (追補3) の専門部会意見対応 (PLM分  
科会メール意見交換の意見集約表)  
P14SC-21-4-1 PLM実施基準2012年版 (追補3) の標準委員会本報告案  
P14SC-21-4-2 PWRの経年劣化メカニズムまとめ表詳細版: 2012年 (追補3)  
(案)  
P14SC-21-4-3 PWRの経年劣化メカニズムまとめ表学会標準版: 2012年 (追  
補3) (案)  
P14SC-21-4-4 PLM実施基準2012年版 (追補3) (案)  
P14SC-21-5-1 PLM実施基準本格改定の課題整理表  
P14SC-21-5-2 JNES意見集約表  
P14SC-21-5-3 JEAC4209との整合  
P14SC-21-5-4 PLM実施基準本格改定案 (本体; JEAC4209との整合)  
P14SC-21-5-5 PLM実施基準本格改定案 (附属書A; 耐震安全性評価まとめ  
表、高経年化技術評価不要の条件)  
P14SC-21-5-6 高経年化技術評価不要の条件案  
P14SC-21-5-7 PLM実施基準本格改定案 (附属書D; 耐震安全性評価まとめ表  
の使用方法, 評価方法の具体化)

P14SC-21-6 PLM実施基準本格改定のスケジュール

参考資料

P14SC-21-参考-1 本格改定案作成時に確認された経年劣化メカニズムまとめ表の誤記

(PWRの経年劣化メカニズムまとめ表に関する資料P14SC-21-4-2,3は、全体確認依頼のメールで最終版が配布されているため、今回は配布を省略された。)

5. 議事

会議に先立ち、出席委員は代理を含めて 20 名（うち 1 名は遅れて出席）で、定足数を満足している旨確認した。

(1) 前回議事録確認 (P14SC-21-1)

文能幹事より、第 20 回 PLM 分科会議事録（案）が紹介され、承認された。

(2) 人事 (P14SC-20-2)

・委員の退任

鈴木主査より、今村委員、利沢委員の退任が報告された。

・委員の新任

新委員として日立 GE ニュークリア・エナジーの大城戸氏が推薦されている旨説明され、審議の結果新委員として選任された。

(3) PLM実施基準2012年版（追補3）の専門部会結果，対応（P14SC-21-3-1~4）

文能幹事より、PLM 実施基準 2012 年版（追補 3）の専門部会決議投票の結果、その他意見が 1 件あったが可決されたことが報告された。

・ 資料 3-2~3 に基づき専門部会の意見対応，決議投票対応について説明され，了承された。

・ 資料 3-4 に基づき、東日本大震災（福島事故）に係る PLM 標準への反映の検討状況について（案）が説明され，11/24 までに各委員がコメントを出し，幹事にて集約，検討した上で 11/29 の専門部会にて報告することとなった。今回は下記のコメントが出た。

➤ 2. (2)で技術評価対象機器との表現があるが、耐震安全性評価を含まないとの誤解を与えるため、耐震も含むことを説明する。

➤ 2. (4)で長期停止中に高経年化技術評価の対象となるプラントの対応について記載しているが，2 F 1 のように安定冷却のみを維持していくようなプラントについての記載も必要であり，文案を考える。（西山委員）

(4) PLM実施基準2012年版（追補3）の標準委員会本報告案（P14SC-21-4-1~4）

文能幹事より標準委員会本報告案が説明された。別紙 3 経年劣化メカニズムまとめ表による経年劣化事象の共有及び維持管理スキームで、保全プログラムから劣化メカニズム整理表に伸びている矢印は、情報の流れであれば方向が逆ではないかという意

見があり、「参照」を「反映」に表記変更した上で矢印を逆にすることとなった。また、矢印の色の意味も特にないので、すべて同じ色にすることとなった。

(5) PLM 実施基準本格改定 (P14SC-21-5-1~7)

各資料が確認され、改定案等について委員からのコメントを募ることになった。(12 月末締切) また、次回分科会までに、担当委員間で検討し、問題を調整しておくことになった。

・ 本格改定課題抽出整理表 (P14SC-21-5-1)

資料が確認され、No.14 コンクリートの済を未に訂正することとなった。

・ JNES 意見集約表 (P14SC-21-5-2)

資料が確認され、解説 C-5-4 熱時効の評価機器・部位の抽出フローで配管と弁を同じフローで抽出することに疑問を示す意見、及び対象外となるケースに高経年化対策上着目すべき事象とそうではない事象が混在していることを指摘する意見が出た。また、コンクリートについては、本来は、何れの部位に対しても、すべての経年劣化事象を考慮すべきとの意見が出た。

熱時効については意見の内容を再確認する (JNES) ことになり、また、熱時効、コンクリートともに十分な検討がなされていないため、今後担当者間で調整を行い、次回の議題とすることとした。

・ JEAC4209 との整合 (P14SC-21-5-3)

文能幹事より、JEAC 側へ PLM 分科会としての意見を伝え、①a.及び b.の件は、JEAC 側で対応してもらうことになったことが説明された。

・ PLM 実施基準本格改定案 (本文) (P14SC-21-5-4)

資料が確認され、長期保全計画の実施時期を示した解説図 (P.16) で、「長期保守管理方針に基づく保守管理」の実施期間については、長期保全計画から長期保守管理方針への切替え時に NISA から出た文書を調べて、本図以外も含めて関連個所の記載を検討することとなった。

・ 附属書 A 改定案 (P14SC-21-5-5)

資料が確認され、20 行以上の凡例を各シートの後ろに付けるのは非効率なため、どこかでまとめて規定した方が良いという意見が出た。一方で、まとめ表にある高経年化技術評価結果の「×」は、高経年化技術評価を実施した結果として発生しないことが確認されたものなので、この分類の詳細な考え方及び使い方を規格化する必要があるという意見があり、検討することとなった。

また、経年劣化事象に対する技術評価側の評価不要と、これまで耐震安全性評価で評価不要としているものは同じにならないのかとの意見があり、今回は前者の方が少なくなるように検討していたが、コメントの主旨も踏まえ検討することになった。

・ 高経年化技術評価不要の条件案 (P14SC-21-5-6)

資料が確認され、2. 条件案の『発生又は進展の可能性のある又はない使用条件』という表現の『ある又は』は、削除することになった。

- ・ 附属書 D 改定案(P14SC-21-5-7)

田村委員より改定内容の説明があり、引用文献の記載については内容を確認の上、追加又は修正を検討することになった。

(6) その他

- ・ 本格改定スケジュール (P14SC-21-6)

2012 年 11 月の専門部会中間報告を目標として、2012 年 8 月頃までに規格改定案の分科会審議が一とおり終わるように、各担当者間で規格案の作成を進めることが確認された。

6. 今後の予定

次回分科会は、2月9日（木）に JNES にて開催予定となった。

以 上